

ワールドと日本政策投資銀行（DBJ）は6月、共同でファンド運営会社、W&Dインベストメントデザインを設立し、ファッション産業を投資対象とした共同運営ファンド「W&Dデザイン投資事業有限責任組合」（W&Dデザインファンド）の運用を開始した。ファッション産業に特化したファンドは国内では初めてだという。運営会社の福本太郎社長に共同運営ファンド組成の狙いなどを聞いた。

W&Dインベストメントデザイン 福本太郎社長

「事業と金融の両輪で次世代型ファンド」



います。ファッションやパレルというのは、人々の生活と密接して存在していますから、金融としても応援する産業になります。

——ファッション産業の資産と課題は。

資産という点で見れば、ファッションの優位性は高いと捉えています。海外、特にアジアに行くくと日本のデザインが受け入れられていると感じますから。一方で課題は、消費者ニーズが多様化しており、それぞれの消費者のニーズにピタッと対

応するのが難しくなっていること。多様化するニーズに対するスピーディーな変化対応が求められています。生産のリードタイムを短くするか、店舗とECの連携を進めるなどニーズを的確に捉えて提案する新たな仕組みが必要になってきています。ワールドは、

生産、物流、EC、空間創造など多様なプラットフォーム（PF）事業を手がけています。このPFを開放する段階まで体制が整っていると見ています。

——すでに20、30案件が持ち込まれている。（ファンド立ち上げの）発表後、さまざまな案件が寄せられています。事業承継的なものが結構多い。一代で立ち上げた事業を今後

どう承継すべきかというような案件は、大きなものも小さなものも来ています。また、ビジネスモデルの転換を図りたいというケースもあります。EC展開するにしても、そのためのシステム構築を自社で一気通貫で作り上げるのは結構大変です。このほか、事業の一部を強化したいとか、いわゆる再生タイプの話も来ています。

——投資先の範囲は。

パレルだけでなく生活雑貨や服飾雑貨も入ります。特に決めているわけではありませんが、メーカー機能を持つところは、メイド・イン・ジャパン、たとえばメイドイン神戸など、まだまだ日本でも通用しますし、アジアなど海外進出

ワールドのプラットフォーム活用

するのにも有益ですよね。

——1号案件について。

最初の投資案件としては、ファンドの認知度も上げたので、ある程度の規模は想定していますが、決めているわけではありません。事業規模として売上高50億円前後から数百億円まで対応できます。M&A（企業の合併・買収）案件になると、組成から投資にいたるまでは通常半年から1年かかります。着実な成長軌道に乗せることを主眼としていますので、（1号案件を）いつまでにとというのは特に決めていません。ただ、年内にはという気持ちは持っています。

——ワールドにとってのメリットは。

ファッション業界全体の

活性化が大きいでしょう。PFの外部開放にもつながります。

——出口戦略は。

IPO（新規株式公開）もありえます。次のステップをどうしたいのか。それにマッチした形で事業計画を組み立てたい。案件によっては、別途ファンドを組成できますし、ファンド自体を大きくすることも可能な仕組みになっています。ファッション特化型のファンドは初めてだと思っと思っています。景気動向に左右されやすく投資を受けにくい産業だと言われていますので、資金投入に対する期待は大きいと感じています。また、事業会社と金融が本当に一体となって取り組む今回のファンドは、我々からすると次世代型のファンドかなと思っています。それを成功させることの意義は大きいと考えています。